山口 裕文：帰化雑草ニワレキシウ属植物について

H. YAMAGUCHI： On the naturalized species of Sisyrinchium in Japan

日本に広く帰化しているニワレキシウとこれに類似するオオニワレキシウ及び，近年，
京阪神に帰化した黄花のニワレキシウは一年生もしくは一年生的で，何れも高さ 2.5 mm
までの雄蕊はその下半部が発育合生体状で上半部が3裂する。一方，北アメリカの典型的な
Blue-eyed grass であるヒレニワレキシウ，ヒトサニワレキシウや S. atlanticum Bickn.
は多年生で，長さ 3 mm 以上の雄蕊は先端まで発育合生状である。近年，細胞遺伝学的分析
とともにこの属の整理が進んでいる。以下に遺伝的特徴をまとめる。

北アメリカ南東部原産雑草性で一年生に多生。花は赤紫色に向けて一斉伝子優性。原
産地では S. exile と自然雑種を形成する (CORRELL and CORRELL: Aquatic & wetland
H. B. K. var. laxum (OTTO) MAEKAWA と扱われたが（久保，1930；笠原，1956），S.
rosalatum に近縁の種または亜種に位置する。このオオニワレキシウを含むニワレキシウ
群は分類が難しい種群で，オオニワレキシウの正確な学名は未決定である（HORNBERGER
私信）。染色体数は 2n=32 で，4 倍体。ニワレキシウと自然雑種を形成するが，F1 の減数
分裂は異常で不稔である。

合衆国南部原産。尼崎市に帰化。花は小型で 7 mm 程度、花被弁は黄色で蕊に沿って赤紫の
筋が走る。二枚の仮花包はニワレキシウより大きく、不等で草質、緩く抱き合う。染色体数
2n=32，4 倍体。

ヒレニワレキシウ（アイイロニワレキシウ）S. graminoides Bickn. 北アメリカ東部原
産。関東地方に帰化（長田，1972）。染色体数 2n=16, 32, 96 で，2，4, 12 倍体。

ヒトサニワレキシウ S. mucronatum MICHX. 北アメリカ東部原産。北海道に帰化
（村田，1982）。染色体数 2n=32，4 倍体。

なお，ニワレキシウとオオニワレキシウに関して有益な comments を頂いたアーカン
サス大学の Ms. K. L. HORNBERGER にお礼申し上げる。 （大阪府立大学農学部）